小　地　第４２２７号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長　様

兵庫県小野市長　蓬　莱

今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

秋冷の候、貴職にはますますご清適のこととお慶び申し上げます。
さて、平成２０年９月１９日付国道企第３７号において依頼のありました標記の件について、下記により回答させていただきます。

記

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など（様式①）
②地域の現状と抱える課題（様式②）

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

兵庫県小野市

小野市は、東西を結ぶ大動脈中国自動車道と山陽自動車道の間に位置し、南北軸として国道１７５号が走っており、北播磨地域の交通の要衝であります。

その中で、小野市では、まちづくりにおいて「３本の川（３Ｒ）構想」を積極的に推進しております。３Ｒとは「リバー」、「レールウェイ」、「ロード」を意味し、県下最大の河川加古川、電化が完了したＪＲ加古川線、４車線化された国道１７５号を３本の川にたとえ、これを基軸に市と周辺地域の活性化に取り組んでおります。

そこで、国道１７５号沿いには、「道の駅」ではなく、家族で１日ゆっくりと過ごすことの出来る「道のオアシス」として「ひまわりの丘公園」を整備し、市内だけでなく市外からも年間利用者１００万人以上の方が訪れております。観光客数も５年間で３倍以上増加し、２６０万人を突破しました。

このように、小野市では３Ｒを基軸に新たな創造と変革を目指し、魅力・活力・個性に富んだまちづくりを進めるなか、「住んで良かったと思えるまち、住んでいることを誇りに思えるまち」、すなわち「２１世紀のエクセレントシティおの」を目指しております。そのビジョンづくり、都市づくりの中で道路が担う役割を以下のように考えます。

○兵庫県の道路網においても、東西の基幹軸の確立から経済成長とともに産業の発展をなし得たと考えられる。そこで、今後は、社会情勢の変化とともに役割の違う道路として位置付け、南北の基幹軸の確立を図り防災に供えた拠点づくりを目指す。また、災害時の対応を考えた補完軸の確立も合わせて考えていかなければならない。

○大胆な発想として、今までの道路を踏襲しつつ物流車（大型車）と生活者の車をセパレートするような、目的に応じた道路の建設が出来ないものかと考える。これらが緊急時の非難ルートや迂回路となり、一方では救援物資の運搬ルートとなるのである。

また、観光ルートの整備へと着眼点を移していくと、正に光を観るための道路として、この地域にしかない道路づ

くりを目指し、観光地と一体となったスポットづくりにもチャレンジしていきたい。

○道路の渋滞が産業の停滞を引き起こすと言われることから、国道を幹とする枝線の強化が地方自治体の責務である。渋滞による排気ガスの懸念から環境への影響、しいては災害時の迂回路等を考慮しながらの道路づくりを考えていかなければならない。『**災害が起きても通行できる道路を確保する**』この北播磨地域が一つになり道路のネットワークを確立させることこそ生活基盤の発展につながると思われる。

○人が利用する道には、鉄道・空路・航路・道路等があるが、これらは産業の発展には必要不可欠であることは言うまでもないが、全ての人に直結するのが道路であり、生活基盤の根幹であることは間違いない。今後も道路の大切さを胸に刻み、道路行政を進めていきたい。

○東西南北に広い県土を持つ兵庫県の道路ネットワークの構築は、全県１時間構想のもと、広域交通を担う高規格道路の整備等が進められてきました。

一方、地域ビジョンやそれぞれの個性あるまちづくりを目指す上で、道路の持つ役割が変わる必要があると考えます。

こうした時代を背景に高度成長期の経済を支えてきた道路も、安心・安全のまちづくりを支える上での道路機能へ、また、地域特性を引き出す道路機能へと道路の役割を変えることであると考える。

具体的には、通過交通と滞在交通が混合しない道路レーンの設定や、単に自転車及び歩行者と車を分離するのではなく、車道を歩行者や自転車等が優先できるフレックスタイムレーンの設置などを検討し、道路も駅・商店街と同じようにまちの顔を表す指標となるべきである。

※道路をめぐって解決が求められていること、また、問題点として認識していること。

○道路行政にも革新の時代がきている。社会環境の変化に順応しつつ取り組むべき内容の優先順位付けが必要である

と考えられる。都市の道路空間においては、バリアフリー化を主眼におき、景観に配慮した『**人に優しい道路づくり**』などの構築を求めていく。

○景観への配慮が叫ばれる今日このごろの道路づくりには、植栽等を行なうことにより『**人の心に花を咲かす**』ことにもつながり喜ばしいことであるが、維持管理等には、行政と市民が一体となったボラティア活動が必要不可欠であることは言うまでもない。こうした一体の活動がより良い道路づくりに発展していく。

○日本経済の高度成長期において造るのが急務であった時代から、造って使いこなす時代が過ぎようとしている。そこで、次代にどのような道路が望まれているのかを考え、利用者ニーズにフレキシブに対応しつつ、イノベーション（技術革新）への限りなき挑戦が必要である。

○人が通るだけの道路（三尺道）で良かった時代を経て、馬力車が通れる道路（六尺道）へと移行し、現在の車社会に対応した道路づくりへと進化してきた。また、砂利道から舗装道路へと走行性を考慮した変遷などの道路の歴史を次代の子供達に教えることで、『**道路を守る大切さ**』が伝えられると思われる。『**道路は物（者）を運ぶだけじゃなく、心を運び心をつないでくれる**』そんな心を伝えていきたい。

※道路や橋梁の保全について、予防的に修繕して長寿命化をはかる計画的な『予防保全』を実施する必要性について

○小野市内におきましても、延長１５m以上の橋梁が４６橋あり、その約半数が架設後30年以上を経ていることを踏まえ、平成２１年度より職員による外観調査、並びにコンサルタント等による専門的調査を実施予定であります。橋梁に関しては、『**新しく求める時代は過ぎ、今あるものを大切にする時代**』へと移行したと思われる。

○建設当時には、想像しえなかった現在の大型交通量に耐えられる橋梁に、いち早くリニューアルが必要と考え、『**小野市道路橋長寿命化計画**』を策定し、この早期の投資が将来の蓄えとなるよう２１世紀型の公共事業の政策を考え合

わせ、また、利用者の安全確保につながるものである。

○全国的に橋梁の架設がピークを迎えた 1975 年（昭和 50 年）から約 30 年余りが経過した今、土木のハード事業の世界で『花の建設・涙の保全』と言われた言葉を胸に、次代に引き継げる橋梁の若返りと、将来への『心を繋ぐ橋』を目指していきたい。道路・橋梁も生き物であり、早期発見・早期対応することが何よりの最大効果である。

※広く、これからの北播磨地域の将来像について、期待と夢について。

平成の大合併とされる市町村合併などが進み、一方で公園や施設の利用形態も広域化が進んでいる。そのなかで、利用する市民にとっては各施設への交通手段というものは大変重要な役割を担います。

北播磨地域では交通手段の大半は車であり、道路整備を行う上で病院や公共施設等の主要施設間のネットワークを考慮し、市域をこえた広域的な道路整備計画が必要不可欠である。国道、県道の所管並びに市町が協力体制の中で、利用者である市民の目線に立った道路整備を行っていくことが必要であります。

整備計画において、道路の持つ機能としては次の４つあると考えます。

①円滑な交通移動手段を確保する機能
②土地利用の促進・誘導による機能
③良好な空間を形成し、災害の拡大を防ぐ防災としての機能
④街並みの景観を形成する機能

交通移動手段の確保では、臨海部においては、県内臨海部における東西の基幹軸は多く整備されておりますが、北播磨地方への南北軸が未だ虚弱な体制であると思われます。北播磨地域では山崎断層活動時には震度６強が予想されており、阪神大震災を教訓とした防災面の強化対策として、緊急時の輸送道路網の形成が必要であります。

また、国道１７５号が明石市から丹波市にかけて早期に整備されることにより、様々な面で各自治体の特色あるさら

なる交流が生まれくるなど、地域間のアクセスが容易になることで地域（観光）資源のネットワーク化が期待されます。
市境を結ぶ道路環境は、都市部と違って北播磨のような地方部では玄関口にあたり、それにふさわしい景観の形成を行い、市外から来られる人々を快く出迎えることが出来るよう配慮したい。
そこで、小野市においては「ガーデニングシティおの」としてボランティア約１４０名が花と緑、色と香りによるまちづくりをテーマに展開しており、市境のポケットパークや公園など、市内の公共施設２２箇所に花壇デザインから植栽・管理までを行い、市民参画型のまちづくりを進めています。
今後の道のあるべき姿として、時間・距離の短縮や輸送費の低減など利便性の確保のみならず、市民とその財産を守る防災空間の創出や地域資源を線で結ぶネットワークづくり、利用する人々の心が和むような街並みの景観形成など、道路が持つ機能や役割を把握するなかで市民の視点を重視した道路づくりへの仕組みの構築が必要と考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

様　式 ②

②－1　地域の現状と抱える課題

兵庫県小野市

○現状	○課題
社会情勢の変化に対応すべく「道路づくり」から「人にやさしい道づくり」「つかう道づくり」と道路行政は変化を遂げてきたなかで、小野市においても刻々と変化する市民ニーズに応えるべき道路整備を推進しておりますが、道路管理延長４５０ｋｍに及ぶ区間においては、経年変化に伴う施設の老朽化が激しく維持管理面で予算をひっ迫している状況となっております。 そこで、限られた予算で効率的な維持管理を遂行するに当たり危険度、重要度等を検討したうえで優先順位を設け適切な保守管理に努めているところでありますが、予算面において管理者努力では対応しかねる状況になっております。 また、沿道花かざり事業を推進し、地元住民の協働と参画を基に環境面に配慮した取組みを進めております。	適切な道路管理を遂行するにあたり、一時しのぎの修繕から脱却し予防保全に向けた対応が求められており、後手管理から先手管理に移行し施設の長寿命化を図るためには予算の確保が必要となっております。 道路特定財源の一般予算化が決定しておりますが、補助金、交付金については以前と同水準が必要と考えます。 また、超高齢化社会におけるドライバーの高齢化に伴う道路機能の改善が求められており、標識及び、合流交差の改善等新たな道路構造の見直しを検討する必要が生じてきた。